



杉に挟まれ狭くなった参道。
あと何年通れるかな？

連載

鳥川流域の巨樹・巨木 Vol.2

倉瀨町三ノ倉

戸榛名神社の大杉

～地域を見守り500年～

巨樹・巨木は、その地域の歴史とともに歩み、文化を育んできた地域の宝です。組合の管内にも多くの巨樹・巨木があります。管内の木々を皆さんに紹介します。

倉瀨町三ノ倉の高崎市倉瀨支所北側に戸榛名神社があります。

この神社の創建ははっきりしませんが、室町時代に三ノ倉の氏神であった社が、榛名神社からの分霊を受け「外榛名（戸榛名）神社」になったといわれています。また、榛名神社のいくつかの参詣路の入口には、戸榛名神社があり、この神社もその一つに数えられます。

参道の石段基点を左右から挟むようにそびえる二本の大杉は、樹齢約五百年と推定され、樹高は約四十三m、幹回りはお互に約五、

八m、左が六、四mあります。平成十七年に高崎市指定天然記念物に指定されています。



地球温暖化の原因は、地球を覆う温室効果ガスが増えすぎて、地球の温度調節ができなくなってしまうことにあります。温室効果ガスの中でも、石油などの化石燃料を燃やすことにより発生する二酸化炭素が最大量を占めています。

そんな中、注目されているのが木質バイオマスの活用です。木質バイオマスは、再生可能な資源としての木材のことです。しかし、木を燃やすと、当然、二酸化炭素が発生してしまいます。なぜこれが、地球環境に優しいエネルギーなのでしょうか。

●二酸化炭素の発生量は

差し引きゼロ

樹木は光合成の際に、二酸化炭素を吸収します。エネルギーを得るために、この樹木、すなわち木質バイオマスを燃やすと、再び二酸化炭素が発生してしまいます。しかし、樹木の伐採後に森林が再造成されれば、成長に伴って再び二酸化炭素が吸収されます。このようなサイクルがあり、木質バイオマスをエネルギーとして燃やしても、大気中の二酸化炭素濃度に影響を与えないことから、これをカーボンニュートラルといいます。

●未利用間伐材などの活用

森林整備に伴い発生する未利用間伐材は、わが国全体で年間二、〇〇〇万m³にもなります。これを無駄なく環境に優しいエネルギーとして発電などに使うことができれば、地球温暖化防止にも役立つとともに、山村地域に資金が循環し、土砂流出の防止や水源のかん養など森林のもつ公益機能が発揮できる森林整備を進めることができます。